

## I はじめに—研究のテーマと目的

連歌研究は近年急速な進展を遂げてきた。従来、テキストの十分な提供も少なく、ましてそれらを集成して作品のデータベース化を試みるまでには、ほど遠い状況であった。しかし、『連歌総目録』（同編纂委員会、平成 9、明治書院）の刊行により、百韻・千句の書誌的基本データが提示され、それにより作品の写本・版本の所在、作者の基本的データが明らかにされ、作品の調査に多大の便宜が与えられるようになった。とはいえ、テキスト本文については発句一句が示されるのみで、主として連衆や興行場所・目的等の調査には長けているが、一方作品としての分析のためには、未だそれを果たすことができるデータではない。また、連歌作品のデータベースを用いた索引という点では、『連歌の新研究』（勢多勝郭、平成 3、おうふう）の索引編がある。これは 15 世紀から 17 世紀にかけての時代に制作された百韻・千句・句集等の句を 5・7・5 または 7・7 の各句から検索できるようにしたもの。出典調査を始め、句の影響関係の分析などにきわめて有益なデータベースとして有効に活用しうるものであるが、やはりテキストの提示また作者のデータという点においては、十分な利用に答えうるものではないと言わざるを得ない。

そのほかにも少なからぬ連歌に関する研究が公刊されている。しかし、いずれにしても確実なテキストの提供、更には作者の情報という点では不十分なものといわざるを得ない。和歌に CD-ROM 版の『新編国歌大観』（全 10 巻、角川書店）があるように、連歌にも各種の検索機能を有する作品集成が必要であるというのが申請者等の共通認識であり、それらを踏まえて今回の共同研究ということになった。もちろん連歌作品の全体的集成は短時日で可能なものではなく、そのためには各種の試行と部分的編纂が前提となろう。そこで、現在最も重視されている連歌作者である宗祇の作品を集成し、それに各種の検索を可能ならしめるデータベースを開発、付加して、コンピュータによって活用できる『宗祇全集』（仮称）を編纂することを計画したのである。

具体的には、次の点の実現を目指してのデータベースの開発、構築が主な作業となった。

- (i) 宗祇の全作品中における最善のテキストの提供。
- (ii) 連歌作品の精細な分析的研究を可能ならしめるデータベースの構築。
- (iii) 中世後期の人的交流・宗教・政治・経済活動・都市と地方・人の移動と交通等の文化史的考察に資するデータベースの構築。

振り返って、4年間の共同研究において、データベースの開発、構築にはかなりの問題点が存し、とくにデータベースのスムーズな運用をはかるべく、データの整理、収集を進める前提としてのデータ処理用のフォーマットを代えるなど、データの収集に処理が遅れ、完全な形での宗祇全集の提供はなかなかしえなかった。だが、今後収集した資料のテキスト化を図り、宗祇全集を提供すべきシステムはほぼ完成した。今後、宗祇全集をはじめ、連歌全集の作成のための基本的なシステムとして運用されることが可能となる。以下に、その設計プランから、実際の運用マニュアルに至るシステムの全体像を提示し、もって報告に代えたい。

研究代表者：綿抜豊昭